

北九州医療・介護連携プロジェクト会議 平成30年度第3回合意事項等

日 時	平成31年2月14日（木）19：00～20：30		
場 所	北九州市役所 3階 大集会室		
参加者	北九州市医師会	権頭 聖	○
	福岡県介護老人保健施設協会北九州ブロック	犬塚 寛	○
	小倉医師会訪問看護ステーション	加藤 ひとみ	○
	福岡県看護協会	閑地 敦子	○
	北九州市薬剤師会	佐藤 千穂	○
	北九州市歯科医師会	重藤 弘之	○
	ケアマネット21	白木 裕子	○
	小倉在宅医療・介護連携支援センター	白土 健司	○
	北九州高齢者福祉事業協会	曾我 満美	○
	福岡県作業療法協会	玉野 和男	○
	福岡県介護支援専門員協会	坪根 雅子	○
	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	藤好 正和	○
	福岡県理学療法士会	山内 康太	○
報告1 現状調査の結果（速報）	<ul style="list-style-type: none"> ・現状調査を行った効果として、病院内で外部との連携をとる際の課題等が浮き彫りになってきた。また、院内の上層部にも説明や検討をするきっかけができた。大変良い機会になっていると感じる。 ・入院後の第一報など、病院から在宅関係者（かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネジャー、高齢者施設など。以下、同じ）に「連絡している」と回答した病院の回答率が在宅関係者の現場感覚とズレを感じる。調査設計の話になるが、「誰に」連絡しているかわかればよかった。 ・「病院が必要な情報」の項目から、ツールの一元化、在宅関係者から提供する情報の平準化を検討していくと、病院が在宅関係者からの情報をより有効に活用してくれるようになるチャンスがあると考えます。 ・救急時に施設から病院に提供する情報・持参する資料も、施設によってバラつきがある。また、夜間、施設に看護師がいるかどうかによっても対応が変わっている。 ・訪問診療をしている診療所では、夜間に病院から情報提供の依頼をされた際は、レセプト・処方箋・検査データの写を持っていつている。こういう基本情報はツールの話にも関わってくるが、こういったデータがツールの中にあると良い。 ・在宅関係者から病院に、患者情報が円滑に提供されるようなルールやツールが必要と共通認識した。 		
協議事項1 病院窓口ガイドの今後のスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・2月中下旬に市HPへ試験的に掲載。3、4月を修正等の期間、5月から本格稼働とすることとし、公表に向け慎重に段階を踏んでいくことで合意。 ・周知が大切。団体のHPに載せることはできる。ケアマネジャーにとっては「病院窓口ガイド」はすごくありがたい情報。歯科医師にとっても、非常にありがたい。 ・「病院窓口ガイド」の更新・記載項目の変更等や、病院・在宅関係者双方の要望などを話し合うためには、病院の地域連携室の連絡会が必要だ。 		

<p>協議事項2</p> <p>体系的な研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体系的な研修の構築に向け、構成員の団体等の研修に「プロジェクト会議」の取組内容を取り上げることで合意。ただし、団体によっては市外の方も入っているため、少数精鋭者向けの研修をするなどやり方を考える必要がある。回答様式は後日、事務局から配付。 ・老健施設には多くの職種（医師、看護師、PT、OT、相談員等）が勤務しているため、職種ごとに研修を分けた方がよいのか。研修のターゲットとする職種を絞るのかを検討する必要がある。 ・「プロジェクト会議」の内容を取り上げる市主催の研修会を開催するかどうかは、各団体の研修状況をみて検討する。 ・ケアマネジャーについては、地域包括支援センターが実施する研修会等で、時間を確保する。 ・介護保険課の研修会等、いろいろなタイミングで周知してほしい。
<p>協議事項3</p> <p>その他今後進める取組について</p>	<p>①患者情報を取得する何らかのツール</p> <p>②情報提供ルール・退院調整ルールづくり</p> <p>③作ったルール・ツールの運用・普及徹底・改善などの仕組みづくり</p> <p>を行うことで合意。ただし、②のルールを作っても、在宅関係者が誰であるかわからないと病院側も連絡することができない。①のツールをきちんと作らないと②のルールが機能しないため、①、②はセットで考える。引き続き、作業部会で検討していくことで合意。構成員は、作業部会で作った物の普及・徹底などの役割を担うことで合意。</p>